

生活に生かす 書写授業のヒント

広島県大崎上島町立大崎小学校
藤井浩治

書写で学習したことを日常生活で生かすことは、書写にとって最大の目標ですが、また、なかなか定着しないことも事実です。今回は、書写授業の中に日常を意識した活動を入れた実践についてご報告します。国語教育相談室六十八号の続編にもなっていますので、合わせてご覧ください。

単元名

「左右の組み立て方『針・銀』」

六年

1 試書をする

手本を見ないで、筆順だけ確認して、「針・銀」と「針・銀」を使った短文「針は銀色に光っています。」を、自作の「こうひつ用紙」(p.19参照)に試書させます。これが書写の原理・原則を学習する前の子どもたちの文字になります。

2

既習事項(「へん」を書くときの原則)の確認をする

「へん」を書くときの原則を確認します。子どもたちから「へんの右端をそろえる」「へんは右上がりにする」等が出されました。

▲試書(p.19「こうひつ用紙」の一部)

針銀

針は銀色に光っています。

3 左右の組み立て方の原則を考える

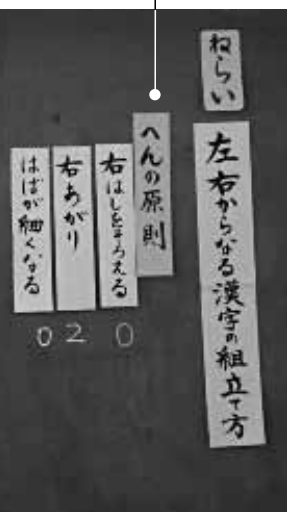
漢字には「つくり」が「へん」よりも上がるものと下がるものがあることを告げた後、カードを使ってみんなで「上がるチーム」と「下がるチーム」に分類します。「上がるチームに共通すること」は?と発問すると、「つくりの上部が縦画になっている」ことに気がつき、さらに「つくりの上部が横画の場合は下がる」ことにも気がつきました。また、上部が「点・はらい」の場合は同じ高さになることも押さえておきます。



子どもたちいっしょに、「つくり」が「へん」よりも「上がるもの」と「下がるもの」に分類していく。

この授業での板書

はじめに、「へんの原則」をまとめる。



【㊦】は試書(ためし書き)。

【㊥】は原則に留意して書いた場合。

【㊤】はまとめ書き。

数字は原則が守れたと挙手した子どもの人数。人数を板書することで、子どもたちに「できるようになった」と実感させることができる。

4 「試書」の自己評価をする

試書の「針・銀」を原則に照らして「つくり」の位置の自己評価をします。この日の授業では、「針」は縦画なので少し上げて書いていた児童は三名。「銀」は横画なので少し下げて書いた児童は十八名でした(全二十六名)。

5 原則に留意して「かねへん」の漢字を書く

「つくり」が上がる「鉄・銭・針」と、同じ高さの「鏡・鉾」と、下がる「銀・録・銅」について全員で確認した後、この八字を原則に留意してゆつくり書かせます。このとき、できるだけ消しゴムを使わないことを指示。日常の書字場面では、何度も消して字形を修正することはないので、日常を意識させるための工夫です。書いた後には、この八字について自己評価をします。「鉄・銭・針」についてつくりを上げて書くことができた児童は二十四名。「銀・録・銅」について、つくりを下げて書くことができた児童は二十五名でした。試書に比べて大きく向上しています。



6 「かねへん」の漢字を速書きする

ここで、先ほど書いた「かねへん」の漢字八字を今度は時間を制限して一分間で書くように指示します。「えー！無理だよ」という子どもたちの声。しかし、顔は楽しそうです。

「速く書いても、原則ができていなければだめだよ」と、ストップウォッチを片手に「よーい。はじめ」。十秒ごとにカウントダウンします。「やめ」の合図をした後、「一分間で八文字書くことできた人は手を挙げよう」と言うと、十数名が手を挙げました。続いて、つくりの位置について手を挙げて自己評価をします。多くの児童が原則を意識して書いていました。

日常場面では、ゆっくり字形に気をつけて書く時間はありません。速く書いて

■この授業で使った「こうひつ用紙」

裏

こうひつ用紙②

針は銀色に光っています。

針銀

「まとめ書き」の欄

表

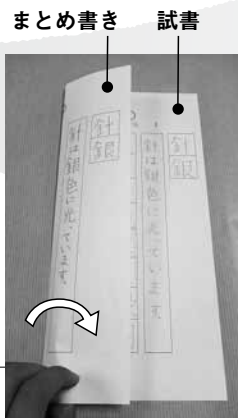
こうひつ用紙①

(6)年()月()日

計	読	鉄	鉄	針	針
読	詩	銭	銭	針	針
談	談	鏡	鏡	銀	銀
話	話	鉦	鉦	録	録
記	記	銀	銀	録	録
語	語	録	録	銅	銅
調	調				

練習欄
「かねへん」と「ごんべん」の8字を「ゆっくり書く」と「1分間で速く書く」練習をする。

「試書」の欄



も学習した原則が使えるようにする練習の工夫が必要です。

7 原則を他のへんの漢字に転用する（「ごんべん」）

日常場面で学習した原則を使えるようにしていくためには、さらに原則を他の文字に応用していくことで理解と定着を高めることが大切です。

練習用紙（左）の「ごんべん」の八字を見せ、「つくりの位置が上がるのはどれでしょう」と発問しながら全員で確認します。「計・読・詩・談」は上げて書く。「話」は同じ高さ。「記・語・調」は下げて書く。「なぜですか」と理由も付け加えて答えさせます。

練習用紙の「ごんべん」をなぞらせながら、つくりの位置に気をつけて練習さ

練習用紙

()年()月()日

計	読	鉄	鉄	針	針
読	詩	銭	銭	針	針
談	談	鏡	鏡	銀	銀
話	話	鉦	鉦	録	録
記	記	銀	銀	録	録
語	語	録	録	銅	銅
調	調				

せます。練習用紙には、早く書いてしまった児童が自主練習して待ったための「自主練習欄」を準備しておきましょう。

その後は、「かねへん」の練習と同様の流れで、ゆっくり八字書かせた後、一分間で同じ八字を速書させます。今度は、ほとんどの子どもたちが一分間で書き終えて嬉しそうでした。また、ゆっくり書いた八字と速書した八字を比較しても、あまり遜色ない字形で書けている子どもたちも多かったです。

8 まとめ書きをする

「この一時間で学習したことを生かして、最後のまとめ書きをしましょう」と指示して、「こうひつ用紙」の裏に、試書と同じ「針・銀」の二文字と「針は銀色に光っています。」の短文を書かせます。

試書とまとめ書きに「語句」だけでなく「短文」を書かせることは、より日常の場面に近づけるための工夫です。日常では、漢字仮名交じりの文章を書くわけですから、漢字の練習だけで終わらないようにしましょう。

9 「試書」と「まとめ書き」を比べる

全員が書き終えたら、「こうひつ用紙」の表に向かって折り返します。すると、「試書」と「まとめ書き」を並べて見ることができるよう用紙を工夫しています。

ここで、「左右の組み立て方の原則」を再度自己評価。「針」のつくりを上げて書いた児童、「銀」のつくりを下げて書いた児童は両方とも二十五名でした。

「授業の最初に書いたものと、最後に書いたものを比べてみましょう」と指示。自分の文字の進歩を確認して、にっこりする子どもたちでした。

10 生活に生かす書写授業の工夫（まとめ）

- 1 できるだけ消しゴムを使用させない。
- 2 時間を制限して練習させる。（速書）
- 3 原則を他の文字に応用する。
- 4 語句だけでなく短文を書かせる。
- 5 毛筆・硬筆を関連させた単元構成をする。

以上、つたない実践ですが、書写授業作りの小さなヒントになれば幸いです。